

■コメント

1. 梅毒

4件の報告がありました。今年の累計は91件(男性58件、女性33件)となり、報告数が増加しています。

梅毒は、性行為で感染し、感染後、感染部位にしこりができたり、リンパ節が腫れたり、全身に「バラ疹」と呼ばれる赤い発疹が出るなど、様々な症状が現れ、症状が軽快しても、治療をしない限り完治はしません。(次頁参照)

2. インフルエンザ

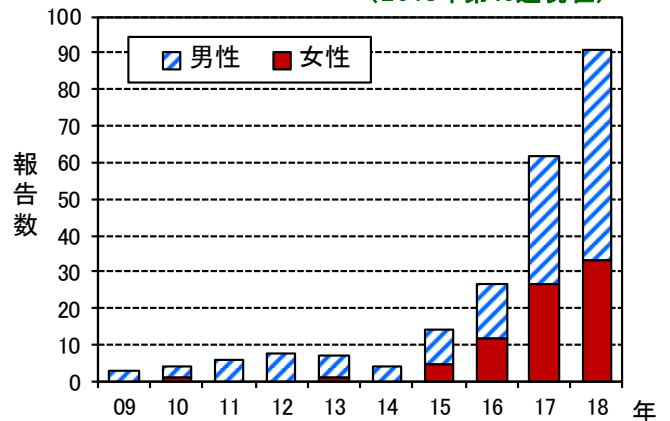
定点医療機関から15人(定点当たり0.41人、迅速診断キット:A型陽性14人、B型陽性1人)の報告がありました。流行前の予防接種、手洗いの励行や咳エチケットなど感染予防対策を心がけましょう。

3. レジオネラ症

2件の報告があり、今年の累計は32件となりました。

梅毒の年間報告数の推移

(2018年第40週現在)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	15	0.41	0.11	↑
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.35	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	47	1.96	1.69	↔
	感染性胃腸炎	91	3.79	3.73	↔
	水痘	7	0.29	0.56	
	手足口病	47	1.96	1.55	↔
	伝染性紅斑	3	0.13	0.14	
	突発性発しん	4	0.17	0.47	
	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.46	
	流行性耳下腺炎	8	0.33	0.75	
	RSウイルス感染症	16	0.67	1.33	↘
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	流行性角結膜炎	6	0.75	1.03	↓
	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	0.11	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	0.11	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	0.11	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	0.11	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	100	女性(30歳代)
4	レジオネラ症	2	32	男性(60歳代)、男性(80歳代)
4	レプトスピラ症	1	1	男性(80歳代)・市外
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	8	男性(60歳代)
5	急性弛緩性麻痺	1	1	男性(10歳未満)
5	梅毒	4	91	女性(10歳代)・1人、男性(20歳代)・2人、男性(60歳代)・1人
5	百日咳	3	47	女性(60歳代)、女性(70歳代)、男性(80歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタウ イルス)
報告数	第36週	—	9	54	99	7	39	—	11	20	3	46	—	10	—	—	—	—	1
	第37週	2	6	48	128	8	63	2	13	17	7	32	—	13	—	—	—	—	—
	第38週	—	6	36	87	2	56	3	7	7	4	25	—	10	—	—	2	—	—
	第39週	7	4	42	91	3	47	2	4	13	9	31	—	16	—	—	—	—	—
	第40週	15	6	47	91	7	47	3	4	2	8	16	—	6	—	—	—	—	—
定点当 たり	第36週	—	0.38	2.25	4.13	0.29	1.63	—	0.46	0.83	0.13	1.92	—	1.25	—	—	—	—	0.14
	第37週	0.05	0.25	2.00	5.33	0.33	2.63	0.08	0.54	0.71	0.29	1.33	—	1.63	—	—	—	—	—
	第38週	—	0.25	1.50	3.63	0.08	2.33	0.13	0.29	0.29	0.17	1.04	—	1.25	—	—	0.29	—	—
	第39週	0.19	0.17	1.75	3.79	0.13	1.96	0.08	0.17	0.54	0.38	1.29	—	2.00	—	—	—	—	—
	第40週	0.41	0.25	1.96	3.79	0.29	1.96	0.13	0.17	0.08	0.33	0.67	—	0.75	—	—	—	—	—
全国	第38週	0.14	0.28	1.18	3.15	0.22	1.01	0.28	0.42	1.04	0.12	2.11	0.01	1.02	0.01	0.05	0.24	—	0.01
	第39週	0.16	0.23	1.24	2.99	0.23	0.86	0.28	0.38	0.84	0.12	1.70	—	1.01	0.01	0.04	0.25	0.01	0.01

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
百日咳	発熱(38.0) 気管支炎	3	男	2018/08/16	鼻汁	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(37.7) 上気道炎 気管支炎	0	女	2018/08/23	咽頭拭い液 鼻汁	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(39.0)	0	男	2018/07/27	糞便	パレコウイルス4型
その他の疾患	発熱(39.0) 咽頭炎	0	女	2018/08/09	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(38.4) ショック症状	0	女	2018/08/25	咽頭拭い液	RSウイルス
その他の疾患	発熱	0	男	2018/09/01	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における梅毒の検査について

梅毒は、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置すると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、死産や奇形が起こることもあります。

梅毒は、早期発見・早期治療が大切です。梅毒に感染したおそれのある方は、早めに医療機関を受診しましょう。なお、保健センターでは、次の条件を満たす方について、無料の梅毒検査を行っています。

★無料検査の対象者((1)と(2)の両方を満たす方)

(1) 広島市内に住所を有する方又は広島市内に通勤、通学する方

(2) 梅毒に感染したおそれのある方

検査は予約制です。予め、検査を希望される保健センターに電話で予約してください。

※検査の予約、実施場所、日時、検査内容等について、詳しくは広島市のホームページからご確認ください。

「梅毒検査について」 <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1519965289997/index.html>

【問い合わせ先】 健康福祉局 保健部 健康推進課 (電話:082-504-2622)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第40週(10月1日～10月7日)